

パラメトロン応用機器の実用化

電信信号の多段中継を行う際に生じる歪みの増加を防ぐためには、中継点で再生中継する必要があった。既に電子管式の装置を実用化させていたが、パラメトロンの発明によって、再生中継器にこれを応用する研究を推進した。1956 年（昭和 31）に試作や現場実験を行い、電信歪みの変動を自動的に追跡し、受信マージンを大きくするという新しいアイデアを盛り込んだ再生中継器を考案し、57 年に実用化させた。

出典：KDD 社史